

会場案内図



県立広島大学(旧県立広島女子大学)
〒734-8558 広島市南区宇品東1丁目1番71号 TEL.082-251-5178(代)

申込締切日

2012年11月23日(金) ※定員になり次第、締め切らせていただきます。

参加費

実践発表者 10,000円(1発表につき2人まで適用となります)※一般参加費は13,000円となります。

定員 600人

お申込方法

- ①参加申込書に必要事項をご記入のうえ、取り扱い旅行者(トップツアー(株)仙台支店)まで郵送、またはFAXにてお申込みください。
- ②申込締切後、申込関係書類、および請求書を発送いたします。

参加申込先・申込についてのお問い合わせ先

トップツアー(株)仙台支店
〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央1-6-18 日石仙台ビル3階
TEL.022-263-3232 FAX.022-265-5765

大会内容についてのお問い合わせ先

第8回小規模多機能ケア全国セミナーinひろしま実行委員会事務局
全国コミュニティライフサポートセンター(CLC内)
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1階
TEL.022-727-8730 FAX.022-727-8737

広島駅から ▶【バス】広島バス「31号(翠町)線」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車-徒歩1分
【市内電車】[5]広島港(宇品)行きにて「県病院前」下車-徒歩7分

バスセンター(紙屋町)から ▶【市内電車】[1][3]広島港(宇品)行きにて「県病院前」下車-徒歩7分

広島駅(宇品)から ▶【市内電車】[1][5]広島駅行き又は[3]広電西広島(己斐)行きにて「県病院前」下車-徒歩7分

八丁堀(天満屋前)から ▶【バス】広電バス「12号線(仁保沖町)」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車-徒歩1分

※会場および会場周辺には駐車場が一切ございませんので公共交通機関、またはシャトルバスをご利用ください。

活き

往く

暮らし

...を考える。

第8回 小規模多機能ケア 全国セミナー

2012年12月8^土日・9^日日

認知症ケア専門士単位:2単位

本セミナー参加で取得することができます。

会場 県立広島大学 広島キャンパス
(広島市南区)

主催 第8回小規模多機能ケア全国セミナーinひろしま実行委員会・ぼちぼちいこうねット
広島市域小規模多機能事業所連絡会・小規模多機能ホーム研究会

第8回 生き・往く 暮らしを考える 小規模多機能ケア全国セミナー

開催趣旨

「小規模多機能ケア全国セミナー」は、2004年に熊本県山鹿市で第1回目を開催したのを皮切りに、これまで、全国6カ所で開催し、今回で8回目を迎えます。

本セミナーでは、小規模多機能ケアに関するさまざまな課題を取り上げるとともに、地域でのその人らしい暮らしを支えるケアを、実践者や介護者家族、行政・社協などと一緒に考えてきました。また、高齢者ケアのみならず、障がい者や子どもの支援など、制度の枠を越え、さらには、地域住民との協働・連携など、現状の一步先を見据えた展開に関しても、議論するとともに、第5回目からは実践者が集い、実践の交流をとおして研鑽する場となることを目指して、実践発表形式を取り入れてきました。

広島県での開催は第6回から、今回で3回目を迎えます。広島県では、今年6月から、広島県地域包括ケア推進センターを立ち上げました。第5期「ひろしま高齢者プラン」のなかでも地域包括ケアを取り上げるなど、より地域を意識した取り組みが今後広がっていくことが期待されています。

小規模多機能ケアの可能性を議論するこのセミナー。みなさまの参加を心よりお待ちしております！

実践発表テーマ

第1部門 小規模多機能型居宅介護への取り組み

※小規模多機能型居宅介護事業所限定

小規模多機能型居宅介護の発表に限定した部門です。単独型、併設型(グループホームや小規模特養)などの実施形態は問いません。小規模多機能型居宅介護に取り組むことになったきっかけや、その取り組みのなかで悩んだこと、うまくいかなかった体験談などとともに、事業の展開方法や取り組んだからこそ感じることであった喜びなどの実践発表です。

第3部門 ケアの質を高めるためのスタッフ育成や組織づくりの工夫

(併設施設やサービスとの連携、協働も含みます)

小規模多機能ケアでは、スタッフ一人ひとりの力量が求められます。小規模多機能ケアに求められるスタッフ像と育成方法、新人研修、職員の気づきを大切にすることができる職場環境、そして小規模多機能ケアならではの組織づくりの工夫などの実践発表です。

第5部門 地域とともに歩む小規模多機能ケア

～地域住民との連携や運営推進会議のあり方～

小規模多機能ケアは、ご近所や自治会などの地域と、どのように関係を築いていくのかが大きなカギとなります。地域住民との連携・協働の関係づくりや取り組み、小規模多機能型居宅介護における運営推進会議のあり方、また市町村や社協との関係づくりなど、さまざまな人たちと創り上げる小規模多機能ケアの実践発表です。

第2部門 地域での暮らしを支える小規模多機能ケア

(地域に暮らすさまざまな人とともに過ごす地域共生ケアなどの実践発表をします。)

介護サービス利用者が地域で暮らし続けることを支援する切り札の一つとして、小規模多機能ケアがあります。この部門では、小規模多機能型居宅介護にこだわらず、小規模デイサービスや認知症デイサービスなどの事業所が、自主事業での訪問や泊まりといった小規模多機能ケア(宅老所)、また、高齢者にとどまらず、障がい者分野、児童分野で取り組んでいる小規模多機能ケアや、「お年寄り・障がい者・子ども」がともに過ごす共生型ケアなどの実践発表です。

第4部門 小規模多機能ケアにおける多様な住まい方

～地域で暮らし続けるための新しい住まい方を考える～

小規模多機能ケアは、これまでの人間関係を断ち切ることをないように、自宅や地域から引き離すことなく、本人や家族の状況に応じて、住み慣れた地域で住み続けられるための、さまざまな住まい方の提案・実践をしてきました。小規模多機能型居宅介護と併設するグループホームや小規模特養、サービス付高齢者住宅などで、自宅での暮らしの支援から徐々に住まいに移行する支援の実践や、小規模デイサービスや認知症デイサービスの自主の泊まりを利用していた人が、自宅で暮らすことが困難になって長期に宿泊している実践など、地域で暮らし続けるための新しい住まい方の実践発表です。

第6部門 小規模多機能ケアにおけるターミナルケアの取り組み

～本人や家族とそれを支える隣近所や専門職との連携～

小規模多機能ケアでは、日々の暮らしだけでなく、人生の最期までを支える取り組みもあります。本人の意思を尊重した看取り方や、家族やご近所との連携、看取りを経験したことで感じたことや見えてきたことなどの実践発表を募集します。また、看取りには欠かすことのできない専門職や医療機関との連携の実践(発表)も併せて発表します。

プログラム

【1日目】12月8日(土)

時間	内容
12:15 ～12:20	インフォメーション
12:20 ～14:00	実践発表 第1部(1発表25分×4発表)
14:00 ～14:20	休憩
14:20 ～16:00	実践発表 第2部(1発表25分×4発表)
16:00 ～16:20	休憩
16:20 ～18:20	<p>分科会 A-1 介護者が家族の死と向き合うということ</p> <p>何度も看取りを経験した介護職員でも、家族を看取るときには心が迷います。瀬戸内海の島々で地域医療に携わってこられた2人の医師の取り組みから、地域で死ぬための本人、そして介護者の覚悟を支える専門職や医師の関わり方、支え方を議論します。</p> <p>●シンポジスト おげんきクリニック(山口県) 院長 岡原 仁志 百島診療所(広島県) 院長 次田 展之 託老所あんき(愛媛県) 代表 中矢 暁美</p> <p>●コーディネーター 社会福祉士 薬真寺 満里子</p>
	<p>分科会 B-1 小規模多機能版 「その人らしさ」の支え方…本人と紡ぐ物語</p> <p>「その人らしさを支える支援」をキーワードに、一人ひとりのお年寄りや寄り添いあうことで見えてくる、一つひとつの物語の楽しさを共有します。「物語」のシナリオはケアプランに…明日からまた、楽しく関わられるように!</p> <p>●シンポジスト 鞆の浦・さくらホーム(広島県) 主任介護支援専門員 石川 裕子 いくのさん家(鳥取県) 副代表 竹本 匡吾</p> <p>●コーディネーター アイリフ(広島県) ご近所福祉クリエイター 酒井 保</p>
	<p>分科会 C-1 講座 「地域」が小規模多機能ケアに求めることは～地域と施設をつなぐ地域福祉の視点～ パート①</p> <p>必要性はわかっているけれど、地域とのつきあい方が分からない。地域が怖い、難しいという声はよく耳にします。この分科会では、利用者のためにこそ地域とのつながりが必要という視点に立ち、地域との上手なつきあい方を伝授します!</p> <p>●シンポジスト 毘沙門台学区自主防災会連合会・第二毘沙門台町内会(広島県) 事務局長 林 裕 広島市口地域包括支援センター センター長 元 廣 緑</p> <p>●コーディネーター リエゾン地域福祉研究所 代表理事 丸山 法子</p>
18:40 ～20:00	<p>交流会</p> <p>ちょっと残って小規模多機能ケアの実践者との交流を深めたい人のための、『交流会』を開催。</p>

【2日目】12月9日(日)

時間	内容
10:00 ～12:00	<p>分科会 A-2 シンポジウム 「ひとり、家で死ぬことってできるのでしょうか？」</p> <p>昨年3割の方が一人暮らしとなりました。介護と医療がうまく連携しながら、家で死にたいと願うお年寄りの最期を支える取り組みから、「自宅で死ぬ」とこの意味を改めて考えます。</p> <p>●シンポジスト 広島市井口台・井口地域包括支援センター センター長 油野 初音 訪問看護ステーション生協コスモス(広島県) 所長 松岡 忍 古田のおうち(広島県) 管理者 竹中 庸子</p> <p>●コーディネーター 広島大学病院 特命広報・調査担当 山内 雅弥</p>
	<p>分科会 B-2 グループワーク 現場職員集合! 「その人らしさ」ってなんだろう?</p> <p>頭で理解していても、なかなか踏み出せない。理想と現場の差をどう乗り越えていくのか。「その人らしさ」をベースに置きながら、参加者の皆さんとともに議論します。</p> <p>●シンポジスト 総合ケアげんき(広島県) 管理者 山川 美樹 みのりグループホーム川内(広島県) 管理者 植 賀 寿夫</p> <p>●コーディネーター アイリフ(広島県) ご近所福祉クリエイター 酒井 保</p>
	<p>分科会 C-2 講座 「地域」が小規模多機能ケアに求めることは～地域と施設をつなぐ地域福祉の視点～ パート②</p> <p>必要性はわかっているけれど、地域とのつきあい方が分からない。地域が怖い、難しいという声はよく耳にします。この分科会では、利用者のためにこそ地域とのつながりが必要という視点に立ち、地域との上手なつきあい方を伝授します!</p> <p>●シンポジスト 毘沙門台学区自主防災会連合会・第二毘沙門台町内会(広島県) 事務局長 林 裕 縁路香(岡山県) 代表 久本 澄子</p> <p>●コーディネーター リエゾン地域福祉研究所 代表理事 丸山 法子</p>
12:00 ～13:00	昼食休憩
13:00 ～15:00	<p>広島発 まとめのディスカッション 地域包括ケアとは何か～住み慣れた地域で暮らし続けるための提言～</p> <p>今、地域包括ケアと呼ばれる仕組みが導入され、そこでは介護と医療の連携が強く意識されています。元々、小規模多機能ケアが目指してきたのは、本人の暮らしが中心にあって、それを介護と医療が支える関係づくりであったはず。介護、医療、行政のそれぞれの立場から、本人を中心に据えた地域包括ケアとは何かを徹底議論します。</p> <p>●シンポジスト ほちほちいこうネット(広島県) 代表世話人 国松 浩司 おげんきクリニック(山口県) 院長 岡原 仁志 広島県健康福祉局介護保険課 課長 豊後 晴一 厚生労働省 中国四国厚生局 局長 川尻 良夫</p> <p>●コーディネーター 東北福祉大学 総合福祉学部 教授 高橋 誠一</p>

